一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信　やまがた No.24

第6回 総会報告

●日　時　平成29年6月11日
●会　場　山形国際交流プラザ

1.会長挨拶

佐藤　裕邦

山形県の状況とケアマネを取り巻く現状と課題のあと、当会の会員数も増えこれからの活動も充実していけるよう、役員と会員力を合わせて頑張っていきましょうと挨拶がありました。

2.来賓祝辞

山形県健康福祉部健康長寿推進課長　星　弘幸様よりいただきました。「山形県の高齢化の現状と課題について」と「当会の果たす役割と期待について」の話がありました。

3.総会成立の確認

平成29年6月11日現在、会員数557名中、出席34名、委任状188名で、定款第30条により総会の成立の確認が報告されました。

4.議長選出

山形市地区支部　大江　祥子氏

5.議事録署名人選出

山形地区支部　平吹　英子氏　山川　恵子氏

6.議事

第1号議案　平成28年度事業報告
第2号議案　平成28年度決算報告
宮林 明美幹事より監査結果報告
第3号議案　平成29年度事業計画（案）
第4号議案　平成29年度予算（案）
議案はすべて承認されました。
第5号議案　理事及び幹事の選任に関する件
質疑なく賛成多数で承認。以上の審議を終え、閉会しました。

新理事（平成29、30年度）紹介 所属・敬称略

会　長　佐藤　裕邦
副会長　高木　知里・明日　浩子
理　事　高橋　則好・伊藤喜久子・結城　弥生
鈴木真祐美・高山　悠二・星川知佳子
佐藤　郁子・佐藤　貴司・伊藤　欣也
五十嵐元徳・大木　徹・星　利佳
吉田　京子・石塚奈美子・丹野　克子
高橋　英一・高橋　秀典・児玉　直子
佐藤　温子・荒木　昭雄・阿部　淳士
伊藤　順哉・佐藤　知生・藤橋佳代子
村山　正市・門脇　俊宏・菅原　麗子
門脇　俊宏・菅原　麗子
監　事　峯田　幸悦　　外部監事　若林　明美

第6回 総会報告 …… 1
平成29年度山形県介護支援専門員協会総会記念講演会 …… 2
第9回 社員総会報告 …… 4
委員会報告 …… 5
地区支部報告・理事会報告 …… 6
相談窓口（ケアマネ110番）より …… 7
書籍紹介 …… 7
コーヒータイム …… 8
編集後記 …… 8

平成29年度山形県介護支援専門員協会総会記念講演会　於 山形国際交流プラザ

今、介護支援専門員としてやるべきこと

－平成30年度同時改定に向けて－

2017年6月11日　14:45～16:15
講師　埼玉県立大学大学院教授　川越雅弘氏

今回の講演内容は、以下の通りです。

1．人口構造の変化と社会保障への影響

地域包括ケア／多職種協働／マネジメント力強化が求められる背景

2．地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置づけ

3．ケアマネジメントに関連する主な施策動向

1）病床の機能分化と連携強化
2）在宅医療・介護の連携強化（中重度者対策）
3）介護予防・日常生活支援総合事業の推進（軽度者対策）
4）ケアマネジメントプロセスの機能強化

4．介護保険法改正のポイント

5．介護支援専門員に期待される役割と課題

1）自立支援型（課題解決型）ケアマネジメントの展開（主に、リハ職との連携・協働）
2）医療との連携強化
（主に、医師、看護師との連携・協働）
3）インフォーマル資源の開発・活用
（地域包括支援センター、市町村との連携・協働）

紙面の都合にて【介護支援専門員に期待される役割と課題について】を中心に報告させていただきます。

1）自立支援型（課題解決型）ケアマネジメントの展開（主に、リハ職との連携・協働）

―関心領域と期待値の把握 ―本人との目標共有に向けて―

資料２

興味・関心チェックシート

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿年齢：＿＿＿歳　性別（男・女）記入日：H＿＿年＿＿月＿＿日

表の生活行為について、現在しているものには「している」の列に、現在していないがしてみたいものには「してみたい」の列に、する・しない、できる・できないにかかわらず、興味があるものには「興味がある」の列に○を付けてください。どれにも該当しないものは「している」の列に×をつけてください。リスト以外の生活行為に思いあたるものがあれば、空欄を利用して記載してください。

生活行為	している	してみたい	興味がある	生活行為	している	してみたい	興味がある
自分でトイレへ行く				生涯学習・歴史			
一人でお風呂に入る				読書			
自分で服を着る				俳句			
自分で食べる				書道・習字			
歯磨きをする				絵を描く・絵手紙			
身だしなみを整える				パソコン・ワープロ			
好きなときに眠る				写真			
掃除・整理整頓				映画・観劇・演奏会			
料理を作る				お茶・お花			
買い物				歌を歌う・カラオケ			
家や庭の手入れ・世話				音楽を聴く・楽器演奏			
洗濯・洗濯物たたみ				将棋・囲碁・ゲーム			
自転車・車の運転				体操・運動			
電車・バスでの外出				散歩			
孫・子供の世話				ゴルフ・グランドゴルフ・水泳・テニスなどのスポーツ			
動物の世話				ダンス・踊り			
友達とおしゃべり・遊ぶ				野球・相撲観戦			
家族・親戚との団らん				競馬・競輪・競艇・パチンコ			
デート・異性との交流				編み物			
居酒屋に行く				針仕事			
ボランティア				畑仕事			
地域活動（町内会・老人クラブ）				賃金を伴う仕事			
お参り・宗教活動				旅行・温泉			

生活行為向上マネジメント™

本シートの著作権（著作人格権、著作財産権）は一般社団法人日本作業療法士協会に帰属しており、本シートの全部又は一部の無断使用、複写・複製、転載、記録媒体への入力、内容の変更等は著作権法上の制限を課して禁じます。

作業療法士会の生活行為向上マネジメントで使用している「興味・関心チェックシート」が紹介されました。本人の困りごと、関心領域、期待しているレベルとその意味を理解する段階について解説がありました。

【段階１：支援領域、関心領域を知る】
興味・関心チェックシートから、以前と現在の生活の違いの把握などを通じて、支援対象となる生活行為（困りごと）や関心領域を発見する。
（例：散歩、買い物、入浴、畑仕事など）

【段階２：期待レベルを把握する】
対象となる生活行為に対し、どのレベルまでを本人が期待しているかを把握する。
（例：自分の手で野菜をつくりたい）

【段階３：期待レベルの本当の意味を理解する】
「畑で野菜を作りたい」という表出された思いに含まれる意味としては、①先祖代々の畑を守りたい、②野菜を作ること自体が好き、③作った野菜を売って喜ばれたい、④野菜の成長していく姿を見るのが好きなど、様々な理由が考えられる。これをおさえることが支援する上では重要、想いを引き出すことが大切です。

次の段階では、リハ職と協働し、どのような支援によって課題解決できるかを目標設定していきます。

2）医療との連携による重度化予防の推進　―再発予防に焦点を当てて―

「脳梗塞の再発予防」に対する方法論の標準化にむけて―医師とケアマネジャーの役割分担を再考する―

○再発予防では、「再発の原因になる病気の管理」と「生活習慣の改善」が重要。脳梗塞の場合には、抗血栓薬の服薬管理も重要になる。

○再発予防に向けたケアマネジャーの役割は、①服薬状況、②血糖異常などに伴う症状の発生の有無、③生活習慣　の確認と医師の事前指示に応じた対応。

3）インフォーマル資源の開発と活用　―地域包括支援センター、市町村との連携強化―

「地域ケア推進会議」等を活用した地域課題の解決を図っていく。地域ケア会議は、多職種の第三者による専門的視点を交えてケアマネジメントの質の向上を図り、また、個別ケースの課題分析等の積み重ねにより、地域課題を発見し、地域に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成へつなげる。

ケアマネジメントの機能強化にむけて

―ケアマネジメントプロセス強化―

1. インテーク能力強化　利用者が「したいこと/なりたくないこと（本音）」の把握
2. 課題認識の強化　リハ職／看護職の見立て方法を学ぶ（地域ケア会議などを通じて）
3. 課題を生じさせている原因の把握能力（課題分析能力）強化
4. 適切な短期目標の設定と達成　短期目標が徐々にアップしていくようなマネジメント
5. 個別サービス計画と介護支援計画の整合性の担保
6. 地域のインフォーマル資源の活用

今後の研修会予定

第2回研修会
10/21（土）　新庄市　ゆめりあ
医療介護連携について―公開事例検討会―

第3回研修会
12/ 3（日）　山形市　ビッグウイング
事例検討・演習

一般社団法人 日本介護支援専門員協会

第9回 社員総会報告

日　時：平成29年6月25日(日)　10時30分～16時30分
場　所：鉄鋼会館(東京都中央区)
参加代議員　佐藤裕邦　佐藤知生(報告者)

珍しく前日入りしのんびりした報告者だったが、当日は雨模様。ひとしきり濡れての会場入りとなった。周りの顔なじみとなった代議員へ今年から2名になってとあいさつしながら伝えているうちに、開会の時間となりました。

報告事項1号は選挙管理規定の変更で、得票数の過半数を得票しなければ会長・理事にはなれなかったのだが、場合によっては何度も投票をしなければならない可能性があるため「過半数」は削除。また代議員の選挙は定数を超えた場合のみ投票を行うことに変更。

報告第2号は社会保障審議会などでの活動報告。決議事項も、事業報告・決算、事業計画・予算と粛々と進んでいく。いつもの年に比べると質疑・討論の数や厳しい指摘も少なく感じる。午後から選挙のため、あまり長い時間をかけたくないという代議員の気持ちがあるのか、執行部の受け答えも慣れてきているのか。

議案第5号は「定款の変更」で、事業計画・予算については理事会にて決定され、総会へは報告される。総会の承認は不要ということに変更となる。予定よりも早く午前中の審議は終了し午後の部へ。

今年度の全国大会は石川県、次年度は福岡県。午後の部の冒頭それぞれの紹介時間があり、その後議案第6号の「役員の選任」について、要は会長と理事の選挙が始まりました。

こちらも投票は粛々とすすみ、会長は柴口里則氏(福岡)が、副会長に新人小原秀和氏(秋田)、七種秀樹氏(長崎)、こちらは、新人そしてベテランの濵田和則氏となりました。理事も入れ替わりがあり、新しい体制となる。

今回の社員総会から佐藤会長とともに代議員二人での参加となり、これで心細さがなくなりましたが、理事選挙・会長選挙があるためか、総会前の候補者からの挨拶状やメールがいつもの年よりもかなり多し。複雑に感じながらも協会の将来に対してより深くアクティブに関与しようとする会員が増えているということと認識し、なおかつ、大変な業務に手を挙げてくれた理事の皆様、特に東北、お隣り秋田(我が故郷)から理事が出てくれたことに敬意を抱いた次第でした。体制が変わって、より協会の活動が充実すればよいと期待しながら、祈りながら岐路につきました。

委員会報告

受託事業委員会

29年度山形県介護支援専門員実務経験者対象研修を山形県から受託いたしました。

昨年度より新たなカリキュラムでのスタートでしたが、国からの文書が案の状態でした。今年度は案がとれた通知がなされましたので、それに沿って研修を実施いたします。ただ、まだ明確でない部分も残されています。国の指針に沿い、研修修了評価が実施され、修了可とならないと修了できなくなりました。

研修予定は下記の通りです。

・専門研修課程Ⅰ、更新研修（専門研修課程Ⅰ）　6/15～7/27　10日間
・主任介護支援専門員研修　7/11～8/29　12日間　レポート提出が必須
・主任介護支援専門員更新研修8/1～10/4　8日間　指導事例提出が原則でありレポート提出は必須となります。
・専門研修課程Ⅱ・更新研修（専門研修課程Ⅰ）10月に開催予定で内陸・庄内2コース
（申し込みは8/10～31予定）

県協会のホームページには国からの連絡事項も掲示しますので、会員の皆様は各自で確認を忘れないようお願いします。

（村山正市）

サポート委員会

今年4月から、「山形県相談業務委託事業」の一つである「面接相談」を強化しました。各地区支部にサポート委員を1名配置し、山形市内の事務局まで来なくても、各地区にて面接相談が受けられるようになりました。申し込み先は、当協会事務局又は各地区支部事務局となっております。守秘義務を遵守しておりますので、どうぞ安心してご相談下さい。また、「会員専用相談掲示板」も新設いたしましたので、ご質問やご相談がありましたら、電話・FAX・ｅメール、郵送等も含めてご相談下さい。

（荒木昭雄）

調査・研究委員会

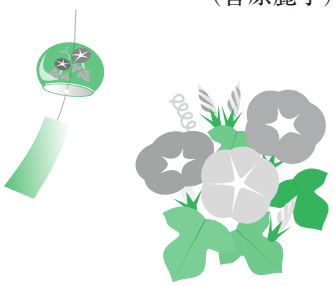
日頃より、皆様には調査・研究委員会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

昨年度「介護保険認定調査」についての調査をおこない、皆様からご協力をいただきましてありがとうございました。この会誌に調査報告を同封していますので、ご覧ください。

今年度は、役員改選があり、委員も新たなメンバーに変わります。今までとは違った視点で、調査研究ができるのではないかと考えております。

調査を希望する内容がありましたら、いつでもお気軽に、当協会までお知らせください。今後とも、調査を依頼した際には、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

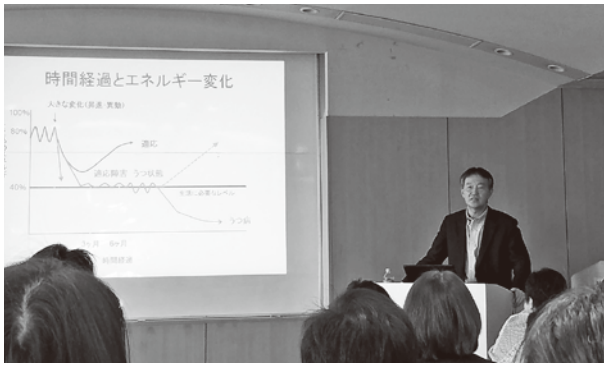
（菅原麗子）



村山地区 支部報告

平成29年度村山地区支部総会及び第1回研修会が、5月14日（日）寒河江市ハートフルセンターにて開催されました。総会では、平成28年度事業報告・収支報告、平成29年度事業計画・予算について、承認されました。

引き続き開かれた研修会では、東谷心療内科院長、真宗大谷派徳正寺住職の精神科医・産業医　東谷慶昭先生を講師に迎え、「ストレス・うつの理解と対応～プラスを増やす生き方～」をテーマに講演いただきました。生活の悪い変化のみならず、良い変化もストレスになることや、仕事や人間関係はうまくいかないのが常であり、そのストレスに対処するためには、自分を取り巻くネットワークをたくさん作り、「何もしない」「いい加減」「すぐ忘れる」という能力を持つ事で、人生が豊かになることなどを、事例を用い、笑いを交えながらお話しいただきました。今回の研修参加者は60名でした。今後の村山地区支部の動きは、10月にケアマネンボの会（会員相互交流会）、第2回・第3回研修会として北村山郡医師会と寒河江市西村山郡医師会主催の（介護保険）主治医研修会への参加を計画しています。



置賜地区 支部報告

平成29年度の総会と平成29年度の第1回研修会が7月22日(土)13:00～米沢市「伝国の杜」で開催予定です。

研修会は「相談援助職の記録の書き方」
～限られた時間で的確な記録を残す!～
のテーマで　福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター特任教主 八木　亜紀子氏よりご講義いたたく予定です。詳しくは次回の地区支部報告させていただきます。

第32回 理事会

と　き　平成29年6月3日（土）15時30～
ところ　山形市総合福祉センター
参加者　佐藤（裕）　高木　明日　小関　五十嵐
吉田　佐藤（温）　佐藤（貴）　鈴木
佐藤（知）　菅原　藤橋　伊藤（喜）　宮林

1．委員会報告

1）研修6月11日（日）総会と第1回研修会役割分担確認。
2）サポート：相談が少なくなっている。電話数件程度。昨年度とは違う状況。
3）広報：24号編集作業中。
4）調査・研究：調査のまとめ報告（作業中）。7月の通信と同封予定。
5）総務：入会・退会時のトラブル事例あり。あらためて入会・退会時の流れの確認・検討が必要。理事、事務局、地区支部との連絡・役割分担の明確化も必要。入会・会費支払い時点で地区支部への連絡（理事会で未承認の方をみなし会員）を速やかにすること、退会の場合も同様。地区からの研修会案内が漏れた事例もあり。
6）研修受託：専門Ⅰ、主任研修の申込み状況。

2．地区支部報告

山形：今後の予定報告。
最上：5月総会終了。研修3ヵ月後の評価提出についての議論あり。提出者へのフィードバッグ、未提出者への対応など。
庄内：役員会開催報告と総会予定。
村山：5月総会・研修会開催の報告。
置賜：役員会開催報告。総会・研修会準備状況の報告。保健所作成の「入退院調整のルール」キックオフ。フィードバッグの時期。

3．理事改選について

団体推薦理事候補・地区支部推薦理事候補者・立候補理事の報告・確認をした。定員内となる。

5. 28年度事業報告について
6. 29年度事業計画（案）について
7. 新規入会者について
　新規入会者の承認をした。
8. 平成28年度決算および
　　平成29年度予算（案）について

ケアマネ110番より

相談窓口（ケアマネ110番）より

このコーナーでは山形県介護支援専門員協会相談窓口に寄せられたご相談と回答をお伝えします。

「通所型サービスA」について

質問

当地区では今年4月から総合事業として通所型サービスAの2時間サービスが始まりました。認定の更新時から総合事業に切り替わるそうですが、要支援1の方で「1日のデイサービスは疲れるので行きたくないが、2時間程度の運動なら行ってみたい」と話されます。11月末で更新の方ですが、通所型サービスAの利用は可能でしょうか？

回答

介護予防・日常生活支援総合事業は、これまで全国一律サービスの介護予防訪問介護と介護予防通所介護を地域の実情に合わせて市町村の事業に移行するものです。緩和基準によるサービスAは、各市町村が独自に設けて実施されるサービスですので、移行の時期については、要介護・要支援認定の更新を迎える時期によって異なったり、ある月から一斉に切り替わったりと各市町村によって異なります。質問者の自治体では更新時から順次切り替わるようですので、原則的には更新時期までそのままのサービス利用になると思いますが、利用者の選択肢の拡充等を勘案して認定更新前の人でも希望により通所サービスAを利用できるかもしれませんので、市町村の担当窓口や生活支援コーディネーター等へ確認なさってはいかがでしょうか。

書籍紹介　『わかりやすい倫理 ～日常ケアに潜む倫理的ジレンマを解決するために～』

著者：箕岡真子　稲葉一人
発行：ワールドプランニング　2011年12月

『倫理』と聞くと「難しい」とか「わかりづらい」というイメージがあります。辞書で調べると『人として守り行うべき道。善悪・正邪の判断において普遍的な規準となるもの』と書かれており、ますますちんぷんかんぷんです。この本では介護現場における倫理的問題を、具体的なQ&A形式でわかりやすく解説しています。

例えば、「施設入所」や「短期入所」などを拒否する利用者さんがいたとします。家族はやむを得ず「買い物に行こう」と言ってだまして施設に連れて行く場合もあるかもしれません。この「嘘をついたり、だまして入所させる」という場面に遭遇した時、私たちは倫理的ジレンマで心苦しくなってしまいますが、現場でどのように考えていけば良いのかを分かり易く解説されています。

文字だらけの本だと熟睡してしまう私ですが、かわいい挿絵が多く読みやすい本でした。（荒木）

ほっと　ひといき　コーヒータイム

コノ春。ゴミ屋敷ニナリソウナ家ノ掃除ヲハジメタ。ソノ時ニ出テキタ　大切ニシマッテイタ昔ノ子供ノ作文。

『……この夏、わたしは老人ホームのデイサービスを訪問する機会があった。そこでSさんというおじいちゃんと一緒の時を過ごすことになった。Sさんは重度の認知症があり、「いま」は分かっても「さっき」は分からない。

何回も何回も同じことを繰り返すSさん。何度もデイルームをくるくる、くるくる歩き回る。わたしも一緒に歩く。同じことの繰り返しでも、Sさんにとっては一回一回が新しい出来事なのだろう。

あまりに動き回るSさんに、職員の方が本読みを勧めてくれた。「ほれ、本読んでける」。Sさんはわたしに本を読んでくれた。声に出して一生懸命に。Sさんが読んでくれた心に残った言葉。「あなたはけっしてひとりぼっちではありません」「あなたはけっしてひとりぼっちにはなれません。」（ひろはまかずとし著「おもいのまんま」）

Sさんの声が、姿が、いまでも忘れられない。共生社会とは、お互いの違い、個性を尊重し認めあえる社会なのだと授業で学んだ。「あなたにはまっすぐにおもいのまんま生きてほしい」。（同）Sさんが読んでくれた言葉が心に染み込んでいく…

ゴミモ一杯ダッタケレド、私ノ宝物モ一杯ダッタ。モウ少シデ　心モ　オ部屋モ　片付キソウ。モウ少シデ　ユッタリ　オイシイ　コーヒータイム。

編集後記

今年度から新しい役員の任期となります。任期は2年間です。役員の多くは継続される方ですが、この度退任される方もおりました。退任される役員におかれましては、お疲れ様でした。あらためてお礼を申し上げます。

役員の人数は規定通りで変わりませんが、会として求められていく仕事は今後も増えていくことになりそうです。

さて、この度は日本介護支援専門員協会の役員体制も新しい任期となり、そしてこちらは大きく変わりました。会長の交代、新たな理事の参画と。県協会としても新たな対応を求められることもあるかもしれません。

会員の皆様の一層のご協力と、会員の拡大が必要な時期です（S．O．T）。

一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌
ケアマネ通信　やまがた　No.24

発行日／平成29年７月
発行人／佐藤　裕邦
発行所／一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
〒990-0021 山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-633-1098　FAX 023-615-6521
E-mail：yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本／田宮印刷株式会社
〒990-2251　山形市立谷川三丁目 1410-1
TEL 023-686-6111　FAX 023-686-6114